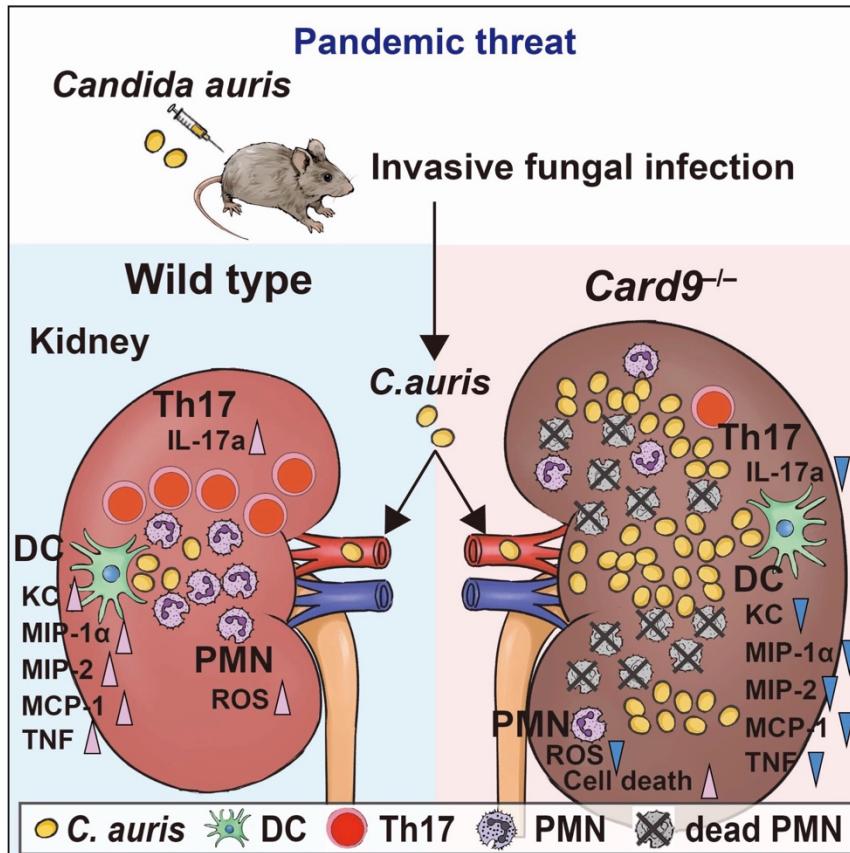


# 福岡学園

## 口腔医学研究センター

# 業績集 2025



病態系 P F : Toyonaga, K. et al.: Adaptor protein CARD9 is required for systemic host defense against *Candida auris*.  
iScience, 28(11): 113864, 2025 より

口腔医学研究センターは、福岡学園における教育・研究活動の基盤である「口腔医学」の概念をさらに広め、高めて具現化した成果として発出することを目指し、2019年10月に設置されました。

常態系・病態系・再生系・臨床歯学系・医学系の5つのプラットフォーム(PF)を構築し、それぞれにリーダーを配置しました。そして、各リーダーが責任を持って指名や公募によって構成員、研究員を配置して、2025年は29名の研究者から成り立っています。

それぞれのメンバーは各PFで口腔の健康から全身の健康を維持・向上させるという「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究に取り組んでいます。加えてPF間や国内外の研究機関との連携研究にも取り組んでいます。また、研究マインドを持った学部学生や大学院生の育成の場としても活用することが求められています。

最近になってPF内あるいはPF間での共同的研究も推進され始め、また入学する大学院生も少しづつですが増えてきています。当センターの活動の成果の一端であろうと思っています。

本業績集では、2025年のセンターの活動実績とともに、この間に掲載または受理された学術論文（総説、原著論文、症例報告など）と学会発表（特別講演とシンポジウム講演、教育講演、受賞講演のみ）のリストと獲得している競争的外部資金を取りまとめました。

個別の原著論文の詳細については、各論文の末行に括弧書きしているdoiをGoogle検索すると当該論文に辿り着けます。また、掲載誌の詳細についてはJournal Citation Reports (<https://jcr.clarivate.com/jcr/home>)を開き、掲載誌名を入力して🔍を押下してご覧下さい。

メンバー各位は自己点検・評価の資料として活用し、さらなる高みを目指して欲しいと願っています。2022年末までの3年3ヶ月間の実績に基づいてメンバーの点検・評価を行いました。（私案ではありますが）二回目の点検・評価を2026年末に行おうと思っています。

学園の皆様には、本業績集から口腔医学研究センターの活動の一端を知って頂き、忌憚のないご意見を賜ればと思っています。

昨年12月8日に開催しました「口腔医学研究センターシンポジウム2025」では、本館に新たに整備された口腔医学研究センター1～5並びに研究棟別館における研究活動の抱負を示して貰いました。そこで導かれる口腔医学研究の推進に大きな期待を持ちました。今後の益々の研究推進と成果の発表に期待します。

(2026年1月30日記)

口腔医学研究センター長

平田 雅人 (hirata@fdcnet.ac.jp)

<2025年活動実績>

- 令和7年12月8日（月）「シンポジウム2025」開催

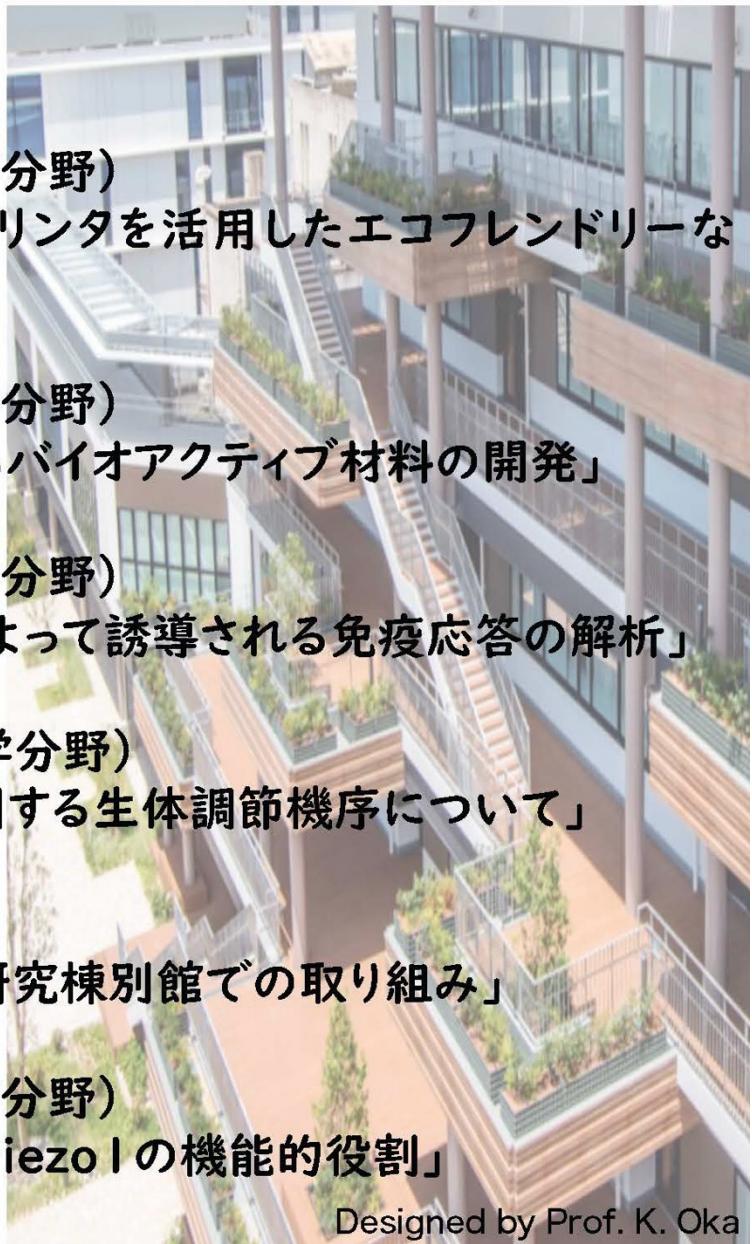
# 口腔医学研究センターシンポジウム 2025

『新装なった口腔医学研究センターでは今』

2025年12月8日（月）16時00分～  
203講義室

## Speakers

- 川口智弘（有床義歯学分野）  
「バイオマス資源と3Dプリンタを活用したエコフレンドリーな歯科材料開発」
- 加我公行（冠橋義歯学分野）  
「う蝕予防効果を発揮するバイオアクティブ材料の開発」
- 豊永憲司（感染生物学分野）  
「新興病原真菌の感染によって誘導される免疫応答の解析」
- 鍛冶屋 浩（細胞生理学分野）  
「ペリオドントカインに起因する生体調節機序について」
- 飯森真人  
「口腔医学研究センター研究棟別館での取り組み」
- 和田裕子（病態構造学分野）  
「歯の発生過程におけるPiezo Iの機能的役割」



Designed by Prof. K. Oka

## ＜シンポジウムの様子＞









## 口腔医学研究センター メンバー

プラットフォーム		氏 名	所 属
① 常態系	リーダー	日高 真純	分子機能制御学分野(生物)
	構成員	平田 雅人	口腔医学研究センター
	研究員	進 正史	細胞生理学分野
	研究員	豊永 憲司	感染生物学分野
	研究員	林 慶和	機能構造学分野
② 病態系	リーダー	田中 芳彦	感染生物学分野
	構成員	北尾 洋之	口腔医学研究センター
	研究員	藤兼 亮輔	分子機能制御学分野(生物)
	研究員	飯森 真人	口腔医学研究センター
	研究員(非常勤)	岡野 慎士	長崎大学大学院
③ 再生系	リーダー	稻井 哲一朗	機能構造学分野
	構成員	鍛治屋 浩	細胞生理学分野
	研究員	堤 貴司	訪問歯科センター
	研究員	後藤 加寿子	短大・歯科衛生学科
	研究員(非常勤)	大野 純	病態構造学分野
④ 臨床歯学系	リーダー	岡 晓子	成育小児歯科学分野
	構成員	吉永 泰周	歯周病学分野
	構成員	松崎 英津子	歯科保存学分野
	研究員	吉本 尚平	病態構造学分野
	研究員	加我 公行	冠橋義歯学分野
	研究員	岸川 咲吏	感染生物学分野
	研究員	根来 香奈江	口腔インプラント学分野
⑤ 医学系	リーダー	谷口 奈央	口腔健康科学分野
	研究員	山野 貴史	耳鼻咽喉科学分野
	研究員	永尾 潤一	感染生物学分野
	研究員	得能 智武	内科学分野
	研究員	青木 久恵	看護大・基礎看護部門
	研究員	荒川 満枝	看護大・基礎看護部門
	研究員(非常勤)	西 憲祐	耳鼻咽喉科学分野

<目次>

常態系プラットフォーム	1
病態系プラットフォーム	7
再生系プラットフォーム	11
臨床歯学系プラットフォーム	15
医学系プラットフォーム	25

## 常態系プラットフォーム

口腔組織の細胞はさまざまなシグナルに応答した発生・分化のプロセスを経て、生体における常態を構築し、維持しています。常態系プラットフォームでは、これら恒常性維持の分子機構を解明し、口腔をはじめとする全身の疾患の発症と進展を制御するしくみを明らかにすることを目標としています。

本プラットフォームでの 2025 年の成果を以下にまとめます。

構成員の平田と研究員の林は、クエン酸回路においてアコニット酸脱炭酸酵素(ACOD1)を介して合成されるイタコン酸に着目した研究を展開しています。本年はイタコン酸誘導体である 4-オクチルイタコン酸が悪性黒色腫細胞内のグルタチオン(抗酸化物質として知られるトリペプチド)を減少させ、がん細胞の有する抗酸化機能を破壊することで細胞内に活性酸素種 (ROS) を蓄積させ、細胞老化を誘導し、顕著な細胞増殖抑制効果を発揮することを明らかにしました。本研究成果については、本年プレスリリースおよび論文発表を行いました。研究員の進は、歯発生機序を解明するため遺伝子改変マウスの解析を行っています。本年は学内の共同研究を開始することで蛍光標識された歯胚をマウス腎被膜下に移植し石灰化を誘導できました。現在、歯の発生過程を可視化し、歯の形態や大きさ及び石灰化を調節する事を目指して様々な手法を用いて研究を進めています。研究員の豊永は、口腔感染症に関わる病原微生物の感染に対する宿主防御応答について、免疫受容体およびそのシグナル関連分子の観点から解析を行なっています。本年は、新たなパンデミックの脅威として世界で警戒され始めているカンジダ・アウリス真菌による感染症に関して、免疫受容体シグナル関連分子の一つである Card9 の欠損が、マウス全身感染において致死的となることを見出し、そのメカニズムについて論文発表を行いました。構成員の日高は、DNA 損傷応答の中心的酵素 ATR/CHK1 キナーゼの活性化制御に関する ETAA1 に着目し、そのアポトーシス誘導における機能解析を行いました。その結果、ETAA1 欠損細胞では ATR/CHK1 キナーゼの活性化が低下し、低濃度のアルキル化剤処理で効率よくアポトーシスを誘導することを見出しました。

常態系プラットフォームでは、上記の通り各研究員が精力的に口腔医学研究に取り組み、多面的な成果に繋げることができました。今後はこれらの成果をさらに展開し、生体の恒常性維持の分子機構の解明に取り組んでまいります。

(リーダー：日高真純)

# ＜常態系プラットフォーム＞

## 【原著論文】

- 1) Hayashi, Y., Saeki, A., Yoshimoto, S., Yano, E., Yasukochi, A., Kimura, S., Utsunomiya, T., Minami, K., Aso, Y., Hatakeyama, Y., Lo, Y-C., Hirata, M., Jimi, E., Kawakubo-Yasukochi, T.: 4-Octyl itaconate attenuates cell proliferation by cellular senescence via glutathione metabolism disorders and mitochondrial dysfunction in melanoma.  
Antioxidants & Redox Signaling, 42(10-12): 547-565, 2025.  
(doi: 10.1089/ars.2024.0629)
- 2) Toyonaga, K., Kishikawa, S., Nagao, JI., Iwanuma, A., Iwai, S., Tanaka, Y.: Adaptor protein CARD9 is required for systemic host defense against *Candida auris*.  
iScience, 28(11): 113864, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.113864)
- 3) Kaji, E., Nagao, JI., Kishikawa, S., Toyonaga, K., Tasaki, S., Iwai, S., Nakagami, M., Iwanuma, A., Ikeda, M., Tanaka, Y.: Fungal pathogen-responsive Th17 cells in gut-mouth axis enhance protection against oropharyngeal candidiasis.  
iScience, 28(6): 112675, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.112675)
- 4) Ju, C., Ogura, A., Hayashi, Y., Kawabata, Y., Acquisto, FD., Kawakubo-Yasukochi, T., Jimi, E.: The impact of environmental enrichment on energy metabolism in ovariectomized mice.  
PLoS ONE, 20(4): e0320180, 2025.  
(doi: 10.1371/journal.pone.0320180)
- 5) Sameshima, J., Chen, H., Kaneko, N., Yan, L., Yokomizo, S., Sueyoshi, T., Nagano, H., Sakamoto, T., Tanaka, S., Maruse, Y., Hattori, T., Kitamura, R., Hayashi, Y., Maehara, T., Fujii, S., Kiyoshima, T., Guy, T., Giedraityte, Z., Kumamaru, W., Moriyama, M., Kawano, S.: Tumor-infiltrating B cells produce tumor-specific antibodies and may contribute to suppressing tumor in head and neck squamous cell carcinoma.  
Oncoimmunology, 14(1): 2543019, 2025.  
(doi: 10.1080/2162402X.2025.2543019)

- 6) Yokomizo, S., Kaneko, N., Chen, H., Yan, L., Tsuji, S., Akagawa, S., Sameshima, J., Sueyoshi, T., Nagano, H., Miyahara, Y., Kamikaseda, Y., Kido, H., Hayashi, Y., Yamauchi, M., Kiyoshima, T., Goto, Y., Ohyama, Y., Kaneko, K., Moriyama, M., Kawano S.: Dysbiosis of the gut microbiome may contribute to the pathogenesis of oral lichen planus through Treg dysregulation.  
Mucosal Immunology, 18(5): 1013-1026, 2025.  
(doi: 10.1016/j.mucimm.2025.05.009)

### 【総説】

- 1) 安河内(川久保)友世, 平田雅人: 妊娠母体栄養が規定する次世代NCDs素因形成の分子基盤とその回避機構の探索  
イルシー(ILSI Japan) 161(1): 1-7, 2025.

### 【学会発表（特別講演・シンポジウム講演のみ）】

- 1) 林 慶和, 佐伯彩華, 平田雅人, 自見英治郎, 安河内(川久保)友世: イタコン酸および ACOD1 はがん進展にどう関与するのか—通説への再検討  
第 67 回 歯科基礎医学会学術大会 シンポジウム 2025.9.5-7 北九州市

### 【2025 年に獲得している外部資金】

#### 『代表研究』

##### <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 代表 : 平田雅人  
基盤研究 (B) 「エピゲノム制御によって世代を越える肥満素因とその多様性に関する研究」令和 6 年度～令和 9 年度
- 2) 代表 : 進 正史  
基盤研究 (C) 「細胞イメージングによる歯発生機構の解明」令和 7 年度～令和 9 年度
- 3) 代表 : 豊永憲司  
基盤研究 (B) 「免疫受容体シグナル関連分子を介した口腔カンジダ症病態制御機構の解明」令和 5 年度～令和 7 年度

4) 代表：林 慶和

基盤研究（C）「がん進展における ACOD1 およびイタコン酸の機能解析」  
令和 5 年度～令和 7 年度

＜貝原守一医学振興財団＞

1) 代表：林 慶和

「ACOD1 によるエネルギー代謝異常制御機構の解明」令和 7 年度～令和 8  
年度

『分担研究』

＜日本学術振興会・科学研究費＞

1) 分担：林 慶和

基盤研究（B）「胎内栄養環境が規定する成熟後の肥満・異所性脂肪蓄積の  
素因形成メカニズム」令和 7 年度～令和 10 年度（代表・安河内友世）

2) 分担：林 慶和

挑戦的研究(萌芽)「疾患特異的環境下における自己抗体産生 B 細胞とその  
抗原の同定」令和 5 年度～令和 7 年度（代表・金子直樹）

3) 分担：林 慶和

基盤研究（B）「IgG4 関連疾患、木村氏病および COVID-19 における  
クラススイッチ機構の解明」令和 4 年度～令和 7 年度（代表・金子直樹）

4) 分担：林 慶和

国際共同研究強化(B)「Expansion of CD4+ cytotoxic T lymphocytes and IgD-  
CD27-double negative B cells in COVID-19 and autoimmune diseases  
including IgG4-related disease」令和 3 年度～令和 8 年度（代表・金子直樹）

＜国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）＞

1) 分担：豊永憲司

新興・再興感染症研究基盤創生事業（多分野融合研究領域）「新興真菌感染症の重症化における免疫学的分子機構の解明と治療法の創出」令和7年度～令和9年度（代表・田中芳彦）

2) 分担：豊永憲司

新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（ヘルステック・チャレンジ）「新興感染症の制圧に向けた近未来型ワクチンの開発」令和7年度～令和8(9)年度（代表・田中芳彦）



## 病態系プラットフォーム

病態系プラットフォームでは、免疫学・微生物学・病理学といった視点から口腔医学における病態の解明と制御を目指して研究を進めています。例えば、免疫応答、口腔内・腸内細菌叢、全身疾患の視点から口腔感染症や口腔癌などの病態を解明し、新しい診断法、予防法や治療法の開発に取り組んでいます。

新本館への移転によって、口腔医学研究センター(OM)5を主体にOM4(感染実験エリア)ならびにOM\_Annex(別館)へ研究拠点が高度専門化されたことで、研究の展開が加速することが期待されています。口腔医学研究センターシンポジウム2025では、患者さま(福岡歯科大学医科大学歯科総合病院)や感染動物(アニマルセンター)からの検体を解析する手法(OM4)やCRISPR/Cas9によるゲノム編集の手法(OM\_Annex)などが各研究拠点から共有されて、さらに開かれて利用しやすく新装なった口腔医学研究センターが紹介されました。

6年目の病態系プラットフォームの研究成果として、『カンジダ真菌による感染症の病態を免疫学的に解明する』論文がいくつか公表されました。新聞社の取材を受けて、これらの研究成果が新聞各社やYahoo!JAPANニュースなど、多くのメディアに度々掲載されました。このように学術的および社会的にインパクトのある研究成果を口腔医学研究センターから発信しております。また、これらの研究力とコンセプトが高く評価されて、日本医療研究開発機構(AMED)から新興・再興感染症研究基盤創生事業(多分野融合研究領域)令和7~8年度、および新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業(ヘルステック・チャレンジ)令和7~8年度へ新たに2つの課題が採択されて、感染症を予防・制圧する研究を発展するための支援を得ました。

『歯周病と腸内環境』に関する福岡学園のブランド力の構築に向けて、当センターの多くのメンバーに研究分担者・参加者としてご協力をいただいて、AMED免疫アレルギー疾患実用化研究事業 令和5~7年度を推進しています。それに加えて、本年度から科研費・挑戦的研究(開拓)の支援を受けて新しい歯周免疫療法の開発に着手しました。ブランド力の強化とともに、歯周治療を起点に腸内環境を標的とした治療法の社会実装を目指して研究を推進していきます。

病態系プラットフォームでは、基礎的な知見を臨床へ、そして臨床的な疑問を基礎へ、双方向のフィードバックによって、基礎ならびに臨床医学研究を両輪に口腔医学を推進するプロジェクトを引き続き展開していきます。

(リーダー：田中芳彦 記)

## ＜病態系プラットフォーム＞

### 【原著論文】

- 1) Toyonaga, K., Kishikawa, S., Nagao, J., Iwanuma, A., Iwai, S., Tanaka, Y.: Adaptor protein CARD9 is required for systemic host defense against *Candida auris*.  
iScience, 28(11): 113864, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.11364)
- 2) Kaji, E., Nagao, J., Kishikawa, S., Toyonaga, K., Tasaki, S., Iwai, S., Nakagami, M., Iwanuma, A., Ikeda, M., Tanaka, Y.: Fungal pathogen-responsive Th17 cells in gut-mouth axis enhance protection against oropharyngeal candidiasis.  
iScience, 28(6): 112675, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.112675)
- 3) Fujikane, A., Fujikane, R., Sechi, Y., Nishi, A., Ishino, Y., Hiyoshi, T., Sakamoto, A., Nabeshima, S.: Multiple antiviral mechanisms of Ephedrae Herba and Cinnamomi Cortex against influenza: inhibition of entry and replication.  
Microbiology Spectrum, 13(6): e0037125, 2025.  
(doi: 10.1128/spectrum.00371-25)
- 4) Hashinokuchi, A., Kinoshita, F., Iimori, M., Kosai, K., Ono, Y., Tomonaga, T., Giacomo, B., Matsudo, K., Nagano, T., Akamine, T., Kohno, M., Takenaka, T., Oda, Y., Yoshizumi, T.: DNA polymerase delta 2 activates cell cycle in lung adenocarcinoma, leading to high malignancy and poor prognosis.  
Annals of Surgical Oncology, 32(6): 4487-4496, 2025.  
(doi: 10.1245/s10434-025-17118-x)

### 【総説】

- 1) 田中芳彦：腸－口腔連関による口腔感染症の免疫応答の仕組み  
日本口腔科学会雑誌 74(1): 1-7, 2025.
- 2) 田中芳彦：腸内環境が歯周病の重症化を引き起こす仕組み －歯周病原細菌に応答する免疫細胞が腸から歯肉へ－  
日本顎顔面インプラント学会誌 24(4): 1-5, 2025.
- 3) 田中芳彦：口腔細菌と全身疾患～腸－口腔連関を介した歯周病の免疫応答調節機構～  
炎症と免疫 33(1): 21-24, 2025.
- 4) 田中芳彦：口腔細菌と全身疾患～腸－口腔連関を介した歯周病の免疫応答調節機構～  
医線探報 8: 6-7, 2025.

## 【学会発表（シンポジウム講演・教育講演・受賞講演）】

- 1) 北尾洋之：抗がん剤による老化誘導とその対策（シンポジウム講演）  
第 12 回 DNA 損傷応答ワークショップ 愛媛県東温市 2025.4.5
- 2) 飯森真人：単一細胞観察からわかったスクレオシドアナログ系抗がん剤の特性と併用候補の探索（シンポジウム講演）  
第 63 回日本癌治療学会学術集会 横浜市 2025.10.18
- 3) 永尾潤一, 田中芳彦：腸－口腔連関による口腔感染症の制御（シンポジウム講演）  
第 70 回日本口腔外科学会総会・学術大会 福岡市 2025.11.15

## 【2025 年に獲得している外部資金】

### 『代表研究』

#### <日本医療研究開発機構 AMED >

- 1) 代表：田中芳彦  
新興・再興感染症研究基盤創生事業（多分野融合研究領域）「新興真菌感染症の重症化における免疫学的分子機構の解明と治療法の創出」令和 7 年度～令和 8 年度
- 2) 代表：田中芳彦  
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（ヘルステック・チャレンジ）「新興感染症の制圧に向けた近未来型ワクチンの開発」令和 7 年度～令和 8 年度
- 3) 代表：田中芳彦  
免疫アレルギー疾患実用化研究事業（臓器連関または異分野融合を取り入れた免疫アレルギー疾患の独創的な病態解明研究）「ヒトにおける腸－口腔連関として腸内細菌叢が果たす歯周病重症化の免疫学的解明」令和 5 年度～令和 7 年度

#### <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 代表：田中芳彦  
挑戦的研究（開拓）「腸内細菌と生物学的製剤の共創による次世代型歯周免疫療法の開発」令和 7 年度～令和 10 年度
- 2) 代表：田中芳彦  
基盤研究（A）「腸－口腔連関を介した歯周病の免疫応答調節機構の解明と新たな治療法の開発」令和 5 年度～令和 7 年度
- 3) 代表：北尾洋之  
基盤研究（B）「治療誘導性細胞老化における ATR 活性化の意義とそれに基づくがん治療戦略」令和 4 年度～令和 7 年度

- 4) 代表：藤兼亮輔  
基盤研究 (C) 「合成致死性を用いた新しいがん治療法の検討～変異に応じた個別療法の確立を目指して～」令和 4 年度～令和 7 年度

＜テルモ生命科学振興財団＞

- 1) 代表：田中芳彦  
予防医療研究助成「腸内環境に照準を合わせた歯周病の重症化予防法の開発」  
令和 6 年度～令和 7 年度

＜大鵬薬品工業株式会社＞

- 1) 代表：北尾洋之  
共同研究（受託研究）「抗がん剤耐性に関する老化の分子メカニズムの解明とそれに基づいた耐性解除」令和 6 年度～令和 7 年度

『分担研究』

＜日本学術振興会・科学研究費＞

- 1) 分担：田中芳彦  
基盤研究 (A) 「核移植クローン技術に基づく免疫応答・疾患発症機構の包括的研究基盤」令和 4 年度～令和 7 年度（代表・神沼 修）
- 2) 分担：飯森真人  
基盤研究 (B) 「治療誘導性細胞老化における ATR 活性化の意義とそれに基づくがん治療戦略」令和 4 年度～令和 7 年度（代表・北尾洋之）
- 3) 分担：田中芳彦  
基盤研究 (C) 「歯周病起因性の免疫細胞が認知機能低下症を引き起こすメカニズムの解明」平成 7 年度～令和 9 年度（代表・岸川咲吏）
- 4) 分担：北尾洋之・飯森真人  
基盤研究 (C) 「G2 期の時間制御で DNA 複製ストレス誘導性抗がん剤に相乗効果を与える抗腫瘍戦略」令和 7 年度～令和 9 年度（代表・野中謙太朗）
- 5) 分担：飯森真人  
基盤研究 (C) 「BRCA1/2 遺伝子変異陽性乳癌における PARP 阻害剤耐性獲得機序の解明と耐性克服法の探索」平成 5 年度～令和 7 年度（代表・茂地智子）

## 再生系プラットフォーム

鍛治屋（構成員）は、咬合不調和による認知機能低下作用の機序解明とその予防策の検討、歯科矯正力によるメカノセンサーの発現と骨リモデリングへの関連性、および低酸素下環境における骨リモデリング制御機序の解明の研究を行っている。本年度は、ヒト歯根膜幹細胞の Piezo1 の活性化は CREB のリン酸化を伴って骨芽細胞とセメント芽細胞への分化が促進され、最終的に石灰化が促進されることを報告した。また、歯の脱落による咬合不調和により誘導される認知能低下は正常な咬合支持の回復により部分的に抑制されること、低酸素下環境は HIF-1 $\alpha$ 依存性に骨芽細胞分化が増強されることを報告した。

堤（研究員）は、口腔内環境により変化する生体内の微生物叢であるマイクロバイオームに着目し、口腔内環境の改善が認知症や全身疾患の発症・進行に及ぼす影響を検証し、健康状態に関するかを検証してきた。本年度は、新たにプロバイオティクスによる口腔内環境改善に関する研究を製薬会社との共同で遂行し特許申請を1件行った。また、歯科訪問診療における遠隔診療支援システムの構築に努め、共著者として論文を1編投稿した。

後藤（研究員）は、アルツハイマー発症モデルマウスを用いて、軽度認知障害(MCI)時の咬合不調和とアルツハイマー病発症との相関を明確にすることを目的とし、認知症の発症および進行への咬合の関連性を含めた研究活動を展開している。本年度は、MCI に相当する月齢のアルツハイマー型認知症発症モデルマウスにおいて、抜歯後に認知能力が低下し正常な咬合支持を回復させるとアルツハイマー発症関連分子の分解・排泄分子が増加して認知機能低下が抑制されることを報告した。

稻井（リーダー）は、口腔粘膜上皮再生の基盤となる正常構造について、細胞間接着に焦点を当て、三次元培養系を用いて研究を進めている。デスマソーム膜タンパク DSG3 を欠失する角化細胞では DSG1 の細胞接着部位への局在が阻害されて接着強度が低下するが、遺伝子発現解析からアドヘレンス結合タンパク lafadin の発現と接着部位への局在が阻害され、タイト結合形成が遅延することを見出した。現在、データ解析を終えて論文を作成している。

再生系プラットフォームは、リーダー、構成員1名、研究員2名の計4名で構成されており、それぞれの研究テーマに取り組んでいる。本プラットフォームでは、歯科治療をサポートする再生療法の開発および実践を主体とし、口腔内細菌と全身との関連、咬合が認知症の発症・進行に及ぼす影響について研究活動を展開している。

2025年の成果としては、原著論文3報が挙げられる。外部資金としては、3件のプロジェクトに関与している。今後もこれらのプロジェクトを軸として研究を推進して行く所存である。

（リーダー：稻井哲一朗）

## <再生系プラットフォーム>

### 【原著論文】

- 1) Kono, Y., Kajiya, H., Nagano, R., Tominaga, C., Maeda, H., Fujita, T., Tamaoki, S.: Piezo1 promotes double-directional differentiation from human periodontal ligament progenitor cells. Journal of Oral Biosciences, 67(2): 100651, 2025. (doi: 10.1016/j.job.2025.100651)
- 2) 谷口祐介, 一志恒太, 堤 貴司, 高江洲雄, 加我公行, 伊藤竜太郎, 城戸勇磨, 谷口奈央, 加倉加恵, 城戸寛史: 訪問歯科医師に対してインプラント専門医による医療資源を届けるためのオンライン診療システム, テレインプラントケアシステム(Tele-Implant Care System: TICS)の開発 福岡歯科大学雑誌 51(1): 1-16, 2025.
- 3) Yamano, T., Kimura, K., Omori, F., Wada, K., Tanaka, M., Tsutsumi, T.: Collaboration between acute care hospitals and nursing homes for dysphagia management: A comparative study of patients with and without pneumonia-related hospitalization. Cureus, 17(3): e81400, 2025. (doi: 10.7759/cureus.81400)

### 【総説・著書】

なし

### 【症例報告】

なし

### 【学会発表（特別講演・シンポジウム講演のみ）】

なし

## 【2025 年に獲得している外部資金】

### 『代表研究』

#### <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 代表：後藤加寿子

基盤研究(C)「咀嚼機能低下がもたらす AGEs 依存型認知機能の低下作用の解明と予防効果の探索」令和 7 年度～令和 9 年度

### 『分担研究』

#### <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 分担：堤 貴司・鍛治屋浩

基盤研究(C)「口腔ケアによる脳内低酸素環境改善機序の解明 歯科介入による認知症撲滅を目指す」令和 7 年度～令和 10 年度（代表：都築 尊）

- 2) 分担：堤 貴司

基盤研究 (C) 「歯周病細菌による刺激を受けた破骨細胞の対するアディポネクチンの影響」令和 5 年度～令和 7 年度（代表：大城希美子）

- 3) 分担：鍛治屋浩

基盤研究(C)「咀嚼機能低下がもたらす AGEs 依存型認知機能の低下作用の解明と予防効果の探索」令和 7 年度～令和 9 年度（代表：後藤加寿子）



## 臨床歯学系プラットフォーム

新校舎への移転に伴い、本学の各分野において研究室・研究環境は大きく変化しました。特に臨床系分野では、これまで各講座がそれぞれに所有していた研究スペースを OM センター1～3 へ集約し、研究内容に応じた再編が行われました。

OM センター1 には、補綴系講座および歯科理工学関連機器を配置し、歯科材料研究を中心とした実験・解析が可能な環境が整備されています。OM センター2 では、新たに培養室を設け、各分野で共用可能なクリーンベンチを配置するとともに、生化学的解析に対応したスペースを確保しました。さらに OM センター3 では、組織解析を中心とした機器を整備し、医学系プラットフォーム（谷口奈央教授）と研究機器およびエリアをシェアする形で運用しています。

このように研究環境が大きく変化する中にあっても、臨床歯学系プラットフォームとして一定の研究業績をご報告できることは、大変心強く感じております。研究環境の大規模な変化は、一時的に研究効率の低下を招くことも少なくありませんが、これまで構成員が積み重ねてきた研究活動が着実に成果として結実したものと考えています。今後も歩みを止めることなく、研究活動を継続していきたいと思います。

また近年、本学大学院への進学者数が少しづつ増加傾向を示していることは、臨床歯学系プラットフォームのみならず、本学全体にとっても大きな希望です。研究に意欲を持つ若手歯科医師・研究者の増加は、将来の歯科医療を支える重要な基盤であり、同時に、指導的立場にある私たちには、質の高い研究指導体制を整備・維持する責任がより一層求められています。

一方で、研究以外の業務の増加や時間的制約などにより、思うように研究成果を積み上げることの難しさを感じる場面も少なくありません。こうした状況だからこそ、現在の OM センターを、分野横断的な研究展開が自然に生まれる環境として前向きに捉え、その強みを最大限に生かしていきたいと考えています。

さて、本年度は症例報告に関する業績がなかったという点にも、あえて触れておきたいと思います。症例報告は、インパクトファクターの高い国際誌への掲載よりも、所属学会が発刊する和文誌への投稿が中心となることが多く、研究業績としての優先順位が低くなりがちな領域であることは否めません。しかしながら、個々の症例に真摯に向き合い、そこから得られた知見を共有することは、歯科医療の質の向上と臨床の進歩に不可欠です。希少症例や治療経過の詳細な記録は、将来の診療指針や新たな研究仮説の礎となります。今後は、私自身も症例報告の意義を改めて意識するとともに、臨床歯学系プラットフォームの構成員全体で、その重要性を共有していきたいと考えています。

(リーダー：岡 暁子 記)

## ＜臨床歯学系プラットフォーム＞

### 【原著論文】

- 1) Yoshimoto, S., Yada, N., Ishikawa, A., Kawano, K., Matsuo, K., Hiraki, A., Okamura, K.: Hypoxia contributes to the early-stage progression of necrotizing sialometaplasia. *The American Journal of Pathology*, 195(6): 1074-1084, 2025.  
(doi: 10.1016/j.ajpath.2025.01.015)
- 2) Nishi, K.<sup>†</sup>, Yoshimoto, S.<sup>†</sup>, Tanaka, T., Kimura, S., Tsunoda, T., Watanabe, A., Teranaka, K., Oguma, Y., Ogawa, H., Kumai, T., Yamano, T.: Spatial transcriptomics of the epipharynx in long COVID identifies SARS-CoV-2 signalling pathways and the therapeutic potential of epipharyngeal abrasive therapy. *Scientific Reports*, 15(1): 8618, 2025. <sup>†</sup>equally contributed.  
(doi: 10.1038/s41598-025-92908-7)
- 3) Sumi, S., Yoshimoto, S., Suyama, K., Taguchi, M., Morita, H., Hiraki, A., Oka, K.: Tenascin-C expression in relation to tumor-stroma interaction in ameloblastoma. *Laboratory Investigation*, 105(11): 104237, 2025.  
(doi: 10.1016/j.labinv.2025.104237)
- 4) Suyama, K., Yoshimoto, S., Taguchi, M., Sumi, S., Kumagai, T., Ogata, K., Kurihara, S., Kuba, Y., Oka, K.: Altered expression of tenascin C in pericoronal tissues by odontogenic epithelial cells during tooth eruption. *Journal of Oral Biosciences*, 67(4): 100698, 2025.  
(doi: 10.1016/j.job.2025.100698)
- 5) Wada, H., Abe, M., Wada, N., Yoshimoto, S., Fujii, S., Moriyama, M., Mori, Y., Kido, MA., Kiyoshima, T.: Piezo1 is related to the enamel matrix formation in mouse tooth germ development. *Journal of Cellular Physiology*, 240(4): e70036, 2025.  
(doi: 10.1002/jcp.70036)
- 6) Hayashi, Y., Saeki, A., Yoshimoto, S., Yano, E., Yasukochi, A., Kimura, S., Utsunomiya, T., Minami, K., Aso, Y., Hatakeyama, Y., Lo, YC., Hirata, M., Jimi, E., Kawakubo-Yasukochi, T.: 4-Octyl itaconate attenuates cell proliferation by cellular senescence via glutathione metabolism disorders and mitochondrial dysfunction in melanoma. *Antioxidants & Redox Signaling*, 42(10-12): 547-565, 2025.  
(doi: 10.1089/ars.2024.0629)

- 7) Yoshinaga, Y., Maruo, N., Ohgi, K., Yamato, H., Tsuchimochi, N., Nakagami, M., Sakagami, R.: Recombinant human fibroblast growth factor-2 promotes surgical-wound healing in the rat gingiva.  
Journal of Dental Sciences, 20(4): 2407-2415, 2025.  
(doi: 10.1016/j.jds.2025.03.031)
- 8) Kaji, E., Nagao, J., Kishikawa, S., Toyonaga, K., Tasaki, S., Iwai, S., Nakagami, M., Iwanuma, A., Ikeda, M., Tanaka, Y.: Fungal pathogen-responsive Th17 cells in gut-mouth axis enhance protection against oropharyngeal candidiasis.  
iScience, 28(6):112675, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.112675)
- 9) Toyonaga, K., Kishikawa, S., Nagao, J., Iwanuma, A., Iwai, S., Tanaka, Y.: Adaptor protein CARD9 is required for systemic host defense against *Candida auris*.  
iScience, 28(11):113864, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.113864)
- 10) Nasu, Y\*., Kishikawa, S\*., Imai, M., Yokoyama, N., Iida, I., Tabeta, K., Terunuma, M.: Ammonia reduces glutamine synthetase expression in astrocytes via activation of Hippo-YAP signaling pathways. \*equally contributed.  
Communications Biology, Online ahead of print, Dec. 13, 2025.  
(doi: 10.1038/s42003-025-09191-5)
- 11) Takaesu, Y., Taniguchi, Y., Kaga, N., Yamaguchi, Y., Kakura, K., Suzuki, N., Matsuura, T.: Long-term clinical outcomes of posterior monolithic and porcelain-fused zirconia crowns: A retrospective cohort study.  
The Journal of Prosthetic Dentistry, 133(6): 1475-1483, 2025.  
(doi: 10.1016/j.prosdent.2025.01.033)
- 12) 藤政誠志朗, 廣瀬陽菜, 松本典祥, 金丸慎吾, 阿南 壽, 松崎英津子: ホスファジルセリンリポソームがマクロファージの M1/M2 分極化に及ぼす影響 –骨形成との連関–  
日本歯内療法学会雑誌 46(2): 103-112, 2025.
- 13) 谷口祐介, 一志恒太, 堤 貴司, 高江洲雄, 加我公行, 伊藤竜太郎, 城戸勇磨, 谷口奈央, 加倉加恵, 城戸寛史: 訪問歯科医師に対してインプラント専門医による医療資源を届けるためのオンライン診療システム, テレインプラントケアシステム(Tele-Implant Care System:TICS)の開発  
福岡歯科大学学会雑誌 51(1): 1-16 2025.

## 【総説】

- 1) 加我公行：生体活性能を有する吸収性メンブレンの開発  
BIO Clinica 40(3): 252-255, 2025.
- 2) 岡 晓子：これから的小児歯科医療の礎を創るために  
小児歯科臨床 12: 848-872, 2025.
- 3) 松崎英津子：保存できる歯髄の診断は？  
歯界展望 145(6): 1182-1184, 2025.
- 4) 松崎英津子：エビデンスに基づく歯髄保護－最新の診療ガイドラインから  
見る歯髄保護の現在  
日本歯科評論 85(5): 31-42, 2025.
- 5) 松崎英津子：歯性上顎洞炎における歯の保存を考える  
日本鼻科学会会誌 64(1): 157-158, 2025.

## 【著書】

- 1) 岡 晓子：「第2章 全身の発育」「第3章 小児・妊婦の口腔保健」歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 第2版 医歯薬出版
- 2) 岡 晓子：「歯の外傷 Dental Trauma」今日の小児治療指針 第18版 医学書院
- 3) 松崎英津子：「学会診療ガイドラインが推奨する根面う蝕の非切削および切削での対応」SDF法フッ化ジアンミン銀を活用した根面う蝕マネジメント（福島正義, 二階堂徹 編著）pp.20-25, ヒヨーロン・パブリッシャーズ 2025 (ISBN: 978-4-86432-091-7)
- 4) 松崎英津子：「シリソジを用いた根管洗浄」歯内療法の三種の神器 2025-2026 (北村和夫 編) pp.146-148, デンタルダイヤモンド 2025 (ISBN: 978-4-88150-610-1)
- 5) 松崎英津子：「第2章 I~III 歯・歯周組織の構造と機能」歯内治療学 第6版 (興地隆史, 石井信之, 前田英史, 鈴木規元 編) pp.5-10, 医歯薬出版 2025 (ISBN: 978-4-263-45693-4)

## 【学会発表（シンポジウム講演・教育講演・受賞講演）】

- 1) 吉本尚平：壞死性唾液腺化生の発生機序について  
第 114 回日本病理学会総会 唾液腺腫瘍病理研究会コンパニオンミーティング 2025 年 4 月 仙台市
- 2) 吉本尚平：IL-6 plays a critical role in stromal fibroblast RANKL induction and consequent osteoclastogenesis.  
第 36 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会 日本臨床口腔病理学会奨励賞受賞講演 2025 年 9 月 岡山市
- 3) 吉本尚平：空間トランスクリプトーム解析による病因病態へのアプローチ  
第 67 回歯科基礎医学会学術大会 シンポジウム 2025 年 9 月 北九州市
- 4) 吉本尚平：病理組織と病態モデル解析による壞死性唾液腺化生の病因検討  
第 67 回歯科基礎医学会学術大会 シンポジウム 2025 年 9 月 北九州市
- 5) 加我公行：イオン徐放性フィラー含有アクリル常温重合レジンのバイオアクティブ効果  
日本補綴歯科学会 第 134 回学術大会 口演賞受賞口演 2025 年 5 月 長崎市
- 6) 加我公行：う蝕予防効果を発揮するバイオアクティブ材料の開発  
口腔医学研究センター シンポジウム 2025 2025 年 12 月 福岡市
- 7) 岡 晓子：子ども達の口腔機能発達を診る  
福岡県歯科保険協会 学術講演 2025 年 2 月 福岡市
- 8) 岡 晓子：永久歯萌出のマネジメント  
小児歯科女医の会講演会 2025 年 2 月 東京都
- 9) 岡 晓子：子ども達の口腔外傷におけるマネジメント  
福岡県田川歯科医師会 学術講演会 2025 年 3 月 田川市
- 10) 岡 晓子：口腔機能発達を含めた子ども達の口腔管理  
佐賀県鹿島・藤津地区歯科医師会学術講演会 2025 年 3 月 鹿島市
- 11) 岡 晓子：これから的小児歯科医療の礎を創るために  
第 63 回 日本小児歯科学会大会 シンポジウム「生涯の確かな礎を目指して」  
2025 年 5 月 新潟市
- 12) 岡 晓子：歯科受診行動や口腔症状を通して考える子ども達の生活環境  
第 16 回 日本子ども虐待医学会学術集会 2025 年 8 月 福岡市
- 13) 岡 晓子：小児歯科医療における病診連携において大学に求められること  
福岡県直方歯科医師会 学術講演会 2025 年 9 月 直方市

- 14) 岡 晓子：こどもまんなか社会が目指す小児歯科医療について考える  
オーラルフィジシャンフォーラム チームミーティング 2025年10月 東京都
- 15) 岡 晓子：口腔機能を育てるための視点と対応  
第6回長崎バイオブロックスタディクラブ定時集会 2025年11月 福岡市
- 16) 松崎英津子：歯と歯髄を守る  
日本外傷歯学会 第15回西日本地方会 総会・学術大会 特別講演 2025年11月 福岡市
- 17) 松崎英津子：究極のMIを実践する：非切削でのう蝕マネジメントから歯髄保存療法まで  
第25回日本歯科医学会学術大会 シンポジウム 2025年9月 横浜市
- 18) 松崎英津子：MID理念に基づくう蝕のマネジメント－根面う蝕・歯髄保護の最新診療ガイドラインから－  
関西障害者歯科臨床研究会 第17回研究集会 特別講演 2025年6月 大阪市
- 19) 松崎英津子：安心・安全！ラバーダム防湿  
福岡市歯科医師会 2025年度 第1回臨床研修会 教育講演 2025年4月 福岡市
- 20) 松崎英津子：口腔と全身との関わり  
令和6年度福岡市特定給食施設研修会 教育講演 2025年3月 福岡市
- 21) 吉永泰周：「お口の健康」が拓く健康寿命の延伸  
第18回 3大学合同シンポジウム 2025年9月 福岡市
- 22) 吉永泰周：歯周基本治療から始まる歯周組織再生療法の勘所  
福岡歯科大学同窓会主催 2025年度スキルアップセミナー シンポジウム  
2025年9月 福岡市
- 23) 吉永泰周：まさか歯周病が心臓病につながるなんて！？  
令和7年度福岡歯科大学公開講座/健康まるごと福岡学園講演会 2025年10月 福岡市
- 24) 吉永泰周：糖尿病と歯周病の悪循環を断ち切る－歯周治療と地域連携の  
ポイント－  
熊本市歯科医師会学術講演会 教育講演 2025年12月 熊本市

## 【2025年に獲得している外部資金】

### 『代表研究』

#### <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 代表：岡 晓子  
基盤研究 (C) 「歯嚢における上皮細胞が歯の萌出に果たす役割の解明」  
令和 6 年度～令和 8 年度
- 2) 代表：吉永泰周  
基盤研究 (C) 「細胞老化を基軸とした歯周炎発症メカニズムの解明と新規歯周病治療の開発」 令和 6 年度～令和 8 年度
- 3) 代表：吉本尚平  
基盤研究 (C) 「エナメル上皮腫・エナメル上皮癌の顎骨吸収・骨内進展機構を標的とした制御法の検討」 令和 5 年度～令和 7 年度
- 4) 代表：松崎英津子  
基盤研究 (C) 「AGEs-S1P シグナルを介した永久歯の第二象牙質形成と歯髄石灰化変性機構の解明」 令和 5 年度～令和 7 年度
- 5) 代表：加我公行  
若手研究「骨形成能と軟組織治癒促進能を誘導する吸収性メンブレンの歯周組織再生療法への応用」 令和 5 年度～令和 7 年度
- 6) 代表：根来香奈江  
若手研究「母体の慢性炎症による仔の精神疾患発症機序の解明」 令和 4 年度～令和 7 年度
- 7) 代表：岸川咲吏  
基盤研究(C) 「歯周病起因性の免疫細胞が認知機能低下症を引き起こすメカニズムの解明」 令和 7 年度～令和 9 年度

#### <武田科学振興財団>

- 1) 代表：吉本尚平  
医学系研究助成「顎骨内悪性腫瘍の骨吸収・結合組織破壊に対する制御法の検討」 令和 6 年度～令和 8 年度
- 2) 代表：岸川咲吏  
研究助成金「周産期から生涯へ：歯周病感染を包括的に解析する」 令和 6 年度～令和 8 年度

## <小林製薬>

- 1) 代表：吉本尚平  
受託研究費（公募）「鼻粘膜オルガノイドを用いた安全性試験の構築」  
令和 5 年度～令和 8 年度

## <サンメディカル社奨学寄付金>

- 1) 代表：松崎英津子  
研究助成金 「SB+nanoHAP 逆根管充填材としての機能」  
令和 7 年度

## 『分担研究』

## <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 分担：吉永泰周  
挑戦的研究（開拓）「腸内細菌と生物学的製剤の共創による次世代型歯周免疫療法の開発」令和 7 年度～令和 10 年度（代表・田中芳彦）
- 2) 分担：松崎英津子・吉本尚平  
基盤研究（C）「炎症反応を応用した新規再生因子キャリアによる根尖性歯周炎の治療法開発」令和 6 年度～令和 8 年度（代表・松本典祥）
- 3) 分担：松崎英津子  
基盤研究（C）「歯髄創傷部の治癒を誘導する修復性マクロファージを標的とした生活歯髄切断法の創生」令和 6 年度～令和 8 年度（代表・阿南 壽）
- 4) 分担：吉永泰周  
基盤研究（C）「Immunometabolism を基盤とした歯周炎制御の可能性」  
令和 6 年度～令和 8 年度（代表・金子高士）
- 5) 分担：吉永泰周  
基盤研究（A）「腸一口腔連関を介した歯周病の免疫応答調節機構の解明と新たな治療法の開発」令和 5 年度～令和 7 年度（代表・田中芳彦）
- 6) 分担：吉本尚平  
基盤研究（C）「唾液腺原基由来幹細胞を応用した唾液腺オルガノイドの誘導と再生モデルの確立」令和 5 年度～令和 7 年度（代表・平木昭光）
- 7) 分担：岡 晴子  
基盤研究（C）「非触媒足場機構理論による歯根膜の機能的線維系の再生を制御する特異的な複合体の解明」令和 5 年度～令和 7 年度（代表：敦賀英知）

- 8) 分担：松崎英津子・吉永泰周

基盤研究（B）「学校歯科検診におけるヘルスプロモーションを目指した看護口腔保健プログラムの構築」令和4年度～令和7年度（代表・橋木晶子）

＜日本医療研究開発機構免疫アレルギー疾患実用化研究事業＞

- 1) 分担：吉永泰周

「ヒトにおける腸－口腔連関として腸内細菌叢が果たす歯周病重症化の免疫学的解明」令和5年度～令和7年度（代表・田中芳彦）

＜厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）＞

- 1) 分担：岡 晓子

「希少難治性消化器疾患の長期的 QOL 向上と小児期からのシームレスな医療体制構築」令和5年度～令和7年度（代表・田口智章）



## 医学系プラットフォーム

医学系プラットフォームは医学、歯学、看護学をはじめとする多様な専門分野の研究者が参画し、基礎・臨床・疫学といった幅広い研究領域を横断的に結びつけることを目的として活動してまいりました。各構成員がそれぞれの専門性を活かして研究を深化させると同時に、分野を越えた対話と共同研究を通じて、口腔医学研究に新たな視点と価値を付加することが、本プラットフォームの大きな特徴です。

近年では、こうした取り組みが着実に実を結び、プラットフォーム内外の研究者が連携した共同研究や、共同での科研費採択なども増えてきました。個々の研究成果が相互に刺激し合い、相加相乗的に研究の質と広がりが高まっていることを、改めて実感しております。

2025年はキャンパスの引越しという大きな環境変化があり、研究活動への影響を危惧しておりましたが、構成員の先生方による変わらぬ熱意と工夫のおかげで、本年も多くの研究成果を報告することができました。

具体的には、2025年には以下の成果がありました：

- 原著論文：23編（英文16編、和文7編）
- 総説・著書：6編（英文0編、和文6編）
- 症例報告：2編（英文0編、和文2編）
- 学会発表：8件（シンポジウム講演・教育講演・基調講演・特別講演等）

また、外部資金については、新規採択14件を含む計30のプロジェクトに関わることができました。

2026年に向けては、医学系プラットフォーム内外で共同研究に取り組んでいる若手研究者の皆さんにも、可能であれば新たな構成員として参画いただきたいと考えております。世代や専門分野を越えた連携を一層強化することで、口腔医学研究のさらなる発展と社会への還元につなげていきたいと存じます。

（リーダー：谷口奈央 記）

## ＜医学系プラットフォーム＞

### 【原著論文】

- 1) Ito, R., Taniguchi, Y., Kashiwamura, T., Kido, H., Kakura, K., Suzuki, N.: Effects of silver nanoparticle coating on peri-implant mucosa and microbiome. International Journal of Implant Dentistry, Online ahead of print, Dec. 27, 2025. (doi: 10.1186/s40729-025-00664-0)
- 2) Kashiwamura, T., Taniguchi, Y., Ito, R., Kido, H., Kakura, K., Suzuki, N.: Odor characteristics and associated bacterial profiles in peri-implantitis using a novel odor measurement device. Archives of Oral Biology, 183: 106486, 2025. (doi: 10.1016/j.archoralbio.2025.106486)
- 3) Takatori, J., Suzuki, N., Hanioka, T., Yoneda, M.: Development of a simple new method to detect oral malodor using a hydrogen sulfide detector tube. International Journal of Dentistry, 2025: 2255278(6 pages), 2025. (doi: 10.1155/ijod/2255278)
- 4) Fujimoto, A., Izumi, M., Imai, Y., Suzuki, N., Akifusa, S.: Changes in general and dental-specific ageism following home-visit clinical training with older adults: a quasi-experimental pre-post study. Journal of Dental Education, Online ahead of print, Nov. 6, 2025. (doi: 10.1002/jdd.70095)
- 5) Takaesu, Y., Taniguchi, Y., Kaga, N., Yamaguchi, Y., Kakura, K., Suzuki, N., Matsuura, T.: Long-term clinical outcomes of monolithic and porcelain-fused zirconia crowns on posterior teeth: a retrospective cohort study. Journal of Prosthetic Dentistry, 133(6): 1475-1483, 2025. (doi: 10.1016/j.prosdent.2025.01.033)
- 6) 谷口祐介, 一志恒太, 堤 貴司, 高江洲雄, 加我公行, 伊藤竜太郎, 城戸勇磨, 谷口奈央, 加倉加恵, 城戸寛史：訪問歯科医師に対してインプラント専門医による医療資源を届けるためのオンライン診療システム、テレインプラントケアシステム (Tele-Implant Care System: TICS) の開発 福岡歯科大学雑誌 51(1): 1–16, 2025.
- 7) 矢田部尚子, 島津 篤, 内藤麻利江, 藤本暁江, 谷口奈央：健康イベントでのフッ化物洗口体験が家庭での実施意向に与える影響と普及促進策の検討 福岡歯科大学雑誌 印刷中, 2026.
- 8) 山野貴史, 縫田竜青, 川本健介, 大森史隆, 和田佳央理, 田中美穂：高齢者施設入所者に対する耳鼻咽喉科の役割 耳鼻と臨床 71: 289-294, 2025.

- 9) 大森史隆, 山野貴史, 吉田兼義, 杉本清楓, 津江文武, 都築 尊, 古賀千尋 : 成人脳性麻痺患者一例に対する舌接触補助床 (PAP) の適応とリハビリ テーション : 構音障害と最大舌圧への効果  
顎顔面補綴 48(1): 34-40, 2025.
- 10) 和田佳央理, 大森史隆, 西平弥子, 木村翔一, 山野貴史 : 当院における小児 構音障害の特徴  
耳鼻と臨床 71: 6-11, 2025.
- 11) Yamano, T., Kimura, K., Omori, F., Wada, K., Tanaka, M., Tsutsumi, T.: Collaboration between acute care hospitals and nursing homes for dysphagia management: A comparative study of patients with and without pneumonia-related hospitalization.  
Cureus, 17(3): e81400, 2025.  
(doi: 10.7759/cureus.81400)
- 12) Omori, F., Kurchi, M., Hirata, Y., Yamano, T.: Validity and reliability of a noninvasive device for measuring laryngeal movement during swallowing.  
Cureus, 17(2): e78873, 2025.  
(doi: 10.7759/cureus.78873)
- 13) Nishi, K., Yoshimoto, S., Tanaka, T., Kimura, S., Tsunoda, T., Watanabe, A., Teranaka, K., Oguma, Y., Ogawa, H., Kumai, T., Yamano, T.: Spatial transcriptomics of the epipharynx in long COVID identifies SARS-CoV-2 signalling pathways and the therapeutic potential of epipharyngeal abrasive therapy.  
Scientific Reports, 15(1): 8618, 2025.  
(doi: 10.1038/s41598-025-92908-7)
- 14) Kimura, S., Aoki, M., Nishi, K., Takeuchi, T., Yamano, T., Sakata, T., Tsunoda, T., Hamasaki, M.: CD155 expression predicts poor prognosis in OTSCC and correlates with TIGIT expression and tumor budding.  
Anticancer Res, 45(8): 3511-3522, 2025.  
(doi: 10.21873/anticanres.17712)
- 15) Toyonaga, K., Kishikawa, S., Nagao, J., Iwanuma, A., Iwai, S., Tanaka, Y.: Adaptor protein CARD9 is required for systemic host defense against *Candida auris* through the contribution of neutrophils.  
iScience, 28(11): 113864, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.113864)
- 16) Kaji, E., Nagao, J., Kishikawa, S., Toyonaga, K., Tasaki, S., Iwai, S., Nakagami, M., Iwanuma, A., Ikeda, M., Tanaka, Y.: Fungal pathogen-responsive Th17 cells in gut-mouth axis enhance protection against oropharyngeal candidiasis.  
iScience, 28(6): 112675, 2025.  
(doi: 10.1016/j.isci.2025.112675)

- 17) Haresaku,S., Naito, T., Aoki, H., Miyazono, M., Monji, M., Umezaki, Y., Uchida, S., Iwamoto, R., Nakashima, F., Masuzaki, T., Yamanaka, T., Akinaga, K., Chishaki, A.: Evaluation of an interprofessional oral healthcare and nursing care programme for dental and nursing students.  
European Journal of Dental Education, Online ahead of print, Oct. 28, 2025.  
(doi: 10.1111/eje.70054, 2025)
- 18) Kuroki, M., Aoki, H., Shoyama, S.: Impression evaluation of middle-aged female model faces with different teeth and skin colors – A generation comparison –.  
Japanese Journal of Dental Esthetics, 38(1): 9-20, 2025.
- 19) Tokunou, T., Ando, SI.: Response to intermittent hypoxia and oxidative stress in patients with sleep apnea syndrome.  
Sleep and Biological Rhythms, 23(2): 213-214, 2025.  
(doi: 10.1007/s41105-025-00572-1)
- 20) Yamasaki, S., Tokunou, T., Kashiwado, Y., Makishi, M., Horiuchi, T.: Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review and expert consensus on efficacy and recommendations.  
Complementary therapies in medicine, 94: 103241, 2025.  
(doi: 10.1016/j.ctim.2025.103241)
- 21) Shinbara, R., Sawatari, H., Yamasaki, K., Kang, M., Sakamoto, I., Yamamura, K., Nagata, H., Tsutsui, H., Chishaki, H., Tokunou, T., Chishaki, A.: Social independence and lifestyle in patients with repaired tetralogy of Fallot.  
Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 9(1): 10-22, 2025.  
(doi: 10.24509/jpccs.24-002)
- 22) 月俣雄太, 得能智武 : 訪問看護における心不全患者支援のあり方に関する文献検討  
看護と口腔医療 8(1): 1-8, 2025.
- 23) 浦野こな実, 岡山加奈, 荒川満枝 : 乳幼児健診等で使用した玩具に付着した細菌と消毒効果  
日本環境感染学会誌 40(3): 142-147, 2025.

### 【総説・著書】

- 1) 谷口奈央 : 口腔の健康状態と全身の健康状態はつながっている！オーラルケアを習慣づけて生活習慣病を予防する  
LION法人向け健康経営支援サービス おくちプラスユー  
URL: <https://oral-kenkou.lion.co.jp/column/19.htm>  
2025年10月3日掲載.
- 2) 塙岡 隆, 谷口奈央 : 健康日本21「喫煙」「歯・口腔の健康」ロジックモデルのクロストーク  
日本禁煙医師連盟通信 34(2): 4-5, 2025.

- 3) 塙岡 隆, 谷口奈央 : 「第15章 精神保健医療福祉」新編衛生学・公衆衛生学 第1版 第4刷 pp.233-239, 医歯薬出版 2025 (ISBN: 978-4-263-45855-6)
- 4) 山野貴史 : 耳鼻咽喉科とおこなう摂食嚥下診療 —多職種連携のその先— 顎顔面補綴 48(2): 103-108, 2025.
- 5) 西 憲祐 : 上咽頭擦過療法(EAT)の有効性メカニズムの組織学的解析。 口腔・咽頭科 38(1): 18-23, 2025. (doi: 10.14821/stomatopharyngology.38.18)
- 6) Marieb, EN., Keller, SM.: Essentials of Anatomy & Physiology, Pearson Education Limited 荒川満枝, 石田陽子, 大久保暢子, 大島千佳, 大橋 敦, 木山博資, 武田裕子, 竹野ゆかり, 徳田信子 訳 (藤本悦子 監訳)「人体の構造と機能」 第5版 医学書院 2025 (ISBN: 978-4-260-05713-4)

### 【症例報告】

- 1) 山野貴史, 西 憲祐, 大森史隆, 和田佳央理 : 舌接触補助床と喉頭蓋囊胞開窓術が有効であった脳梗塞後の嚥下障害 口腔・咽頭科 38(1): 63-68, 2025.
- 2) 大森史隆, 山野貴史, 吉田兼義, 杉本清楓, 津江文武, 都築 尊, 古賀千尋 : 成人脳性麻痺患者一例に対する舌接触補助床(PAP)の適応とリハビリテーション : 構音障害と最大舌圧への効果 顎顔面補綴 48(1): 34-40, 2025.

### 【学会発表 (シンポジウム講演・教育講演・受賞講演)】

- 1) 谷口奈央 : 歯科医療における動機づけ面接 (MI) ~禁煙支援と教育実践の視点から~ (シンポジウム講演)  
第74回日本口腔衛生学会・学術大会 新潟市 2025年5月17日
- 2) 谷口奈央 : 健康経営への歯科領域における喫煙影響のインテグレーション (シンポジウム講演)  
第74回日本口腔衛生学会・学術大会 新潟市 2025年5月18日
- 3) 谷口奈央 : いい息、いい人生～口臭予防で延ばす健康寿命～ (教育講演)  
令和7年度 歯とお口の健康週間 歯科保健講演会 伊万里市 2025年6月7日
- 4) 山野貴史 : ここまでやれる超高齢社会の嚥下診療 (特別講演)  
第125回九州医師会医学会 2025 in 福岡 福岡市 2025年11月30日

- 5) 山野貴史：高齢者嚥下診療の最前線：耳鼻咽喉科が主導する多職種連携のかたち(教育講演)  
佐賀県耳鼻咽喉科臨床医会懇話会 佐賀市 2025年10月17日
- 6) 西 憲祐：空間的遺伝子発現解析で迫る、EAT の効果とメカニズム(教育講演)  
第126回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 横浜市 2025年5月29日
- 7) 西 憲祐：空間的遺伝子発現解析で描く上咽頭と Long COVID の病態地図(パネルディスカッション)  
第38回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会 函館市 2025年9月12日
- 8) 永尾潤一, 田中芳彦：「腸-口腔連関による口腔感染症の制御」(シンポジウム講演)  
第70回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会シンポジウム 福岡市 2025年11月15日

#### 【2025年に獲得している外部資金】

##### 『代表研究』

##### <日本学術振興会・科学研究費>

- 1) 代表：谷口奈央  
基盤研究(C)「生涯現役社会を見据えた「タバコ臭の見える化」による口腔保健からの禁煙指導の新展開」  
令和7年度～令和9年度
- 2) 代表：谷口奈央  
基盤研究(C)「新規ハイブリッド式口臭判定法の開発」  
令和4年度～令和7年度
- 3) 代表：山野貴史  
基盤研究(C)「摂食嚥下障害に対する急性期病院と高齢者施設との連携」  
令和6年度～令和8年度
- 4) 代表：青木久恵  
基盤研究(C)「オーラルフレイルを考慮した看護師用の簡便で包括的な口腔アセスメントツールの開発」  
令和6年度～令和9年度
- 5) 代表：得能智武  
基盤研究(C)「健康寿命延伸を目指した多職種による「口から全身保健指導プログラム」の構築」  
令和6年度～令和9年度

- 6) 代表：荒川満枝  
基盤研究 (C) 「感染症パンデミック下で運用可能なアジアにおける国際  
感染症看護ガイドラインの作成」  
令和 6 年度～令和 9 年度

＜一般財団法人曾田豊二記念財団＞

- 1) 代表：山野貴史  
研究助成金タイプ 1 「高解像度マノメトリーと嚥下造影検査の同時計測で  
の嚥下機能評価」  
令和 6 年度～令和 8 年度

＜公益財団法人発酵研究所＞

- 1) 代表：永尾潤一  
一般研究助成「歯周病の発症を制御する歯周病原細菌由来の抗原の特定」  
令和 7 年度

＜わかもと製薬株式会社＞

- 1) 代表：谷口奈央  
受託研究「WB21 配合食品の口腔内カンジダ菌に対する効果の検討」  
令和 7 年～令和 8 年

『分担研究』

＜日本学術振興会・科学研究費＞

- 1) 分担：谷口奈央  
基盤研究 (B) 「看護・歯・医学連携による産科医療者対象「妊娠婦歯科  
保健部会教育プログラム」構築と検証」  
令和 7 年度～令和 9 年度 (代表・田出美紀)
- 2) 分担：谷口奈央  
基盤研究 (C) 「メイラード化希少糖による硫化水素不揮発化機序の解明  
および口臭抑制への臨床応用」  
令和 7 年度～令和 9 年度 (代表・米田雅裕)
- 3) 分担：谷口奈央  
基盤研究 (C) 「疫学的視点に基づく新規インプラント周囲炎予防法の開発：  
乳酸菌とナノ銀粒子の活用」  
令和 7 年度～令和 9 年度 (代表・谷口祐介)
- 4) 分担：谷口奈央  
基盤研究 (C) 「口臭抑制：口臭と原因菌の可視化による口腔清掃の動機  
付け」  
令和 5 年度～令和 7 年度 (代表・石井綾子)

- 5) 分担：谷口奈央・青木久恵  
基盤研究 (B) 「学校歯科検診におけるヘルスプロモーションを目指した看護口腔保健プログラムの構築」  
令和 6 年度～令和 7 年度（代表・榎木晶子）
- 6) 分担：谷口奈央  
基盤研究 (C) 「枯草菌及び枯草菌由来 surfactin による即効的かつ持続的口臭抑制に関する研究」  
令和 4 年度～令和 7 年度（代表・古賀千尋）
- 7) 分担：山野貴史  
基盤研究 (C) 「喉頭挙上運動強化に最適な嚥下手技使用条件の検討及びその効果検証」  
令和 5 年度～令和 7 年度（代表・大森史隆）
- 8) 分担：永尾潤一  
基盤研究 (C) 「歯周病起因性の免疫細胞が認知機能低下症を引き起こすメカニズムの解明」  
令和 7 年度～令和 9 年度（代表・岸川咲吏）
- 9) 分担：永尾潤一  
挑戦的研究 (開拓) 「腸内細菌と生物学的製剤の共創による次世代型歯周免疫療法の開発」  
令和 7 年度～令和 10 年度（代表・田中芳彦）
- 10) 分担：永尾潤一  
基盤研究 (B) 「免疫受容体シグナル関連分子を介した口腔カンジダ症病態制御機構の解明」  
令和 5 年度～令和 7 年度（代表・豊永憲司）
- 11) 分担：青木久恵  
基盤研究 (C) 「健康寿命延伸を目指した多職種による口から全身保健指導プログラムの構築」  
令和 6 年度～令和 9 年度（代表・得能智武）
- 12) 分担：青木久恵  
基盤研究 (C) 「認知症高齢者の口腔ケア拒絶に対応した脱感作法導入プログラムの多職種共同開発」  
令和 3 年度～令和 7 年度（代表・中島富有子）
- 13) 分担：青木久恵  
基盤研究 (C) 「歯と肌の色から受けれる顔印象に基づく性別・年齢別の歯の色選択ツールの開発」  
令和 4 年度～令和 7 年度（代表・黒木まどか）
- 14) 分担：青木久恵  
基盤研究 (C) 「歯と肌と髪の色彩調査に基づく高齢者の歯の色の選択ツールの開発」  
令和 7 年度～令和 10 年度（代表・黒木まどか）

- 15) 分担：青木久恵  
基盤研究 (C) 「口腔内疾患・義歯付き顎模型を用いた口腔アセスメント・ケア OSCE の開発と有用性の検討」  
令和 7 年度～令和 12 年度 (代表・門司真由美)
- 16) 分担：青木久恵  
基盤研究 (C) 「ケースラーニングを用いた歯学・看護学生への多職種連携口腔ケア教育プログラムの構築」  
令和 4 年度～令和 7 年度 (代表・晴佐久悟)
- 17) 分担：得能智武  
基盤研究 (C) 「感染症パンデミック下で運用可能なアジアにおける国際感染症看護ガイドラインの作成」  
令和 6 年度～令和 9 年度 (代表・荒川満枝)
- 18) 分担：得能智武  
基盤研究 (C) 「プラダーウィリ症候群児の養育者への睡眠時無呼吸に対する療養支援プログラムの構築」  
令和 6 年度～令和 8 年度 (代表・飯野英親)
- 19) 分担：得能智武  
基盤研究 (B) 「アセチル化修飾制御に基づく骨格筋異常の治療法開発」  
令和 7 年度～令和 9 年度 (代表・絹川真太郎)
- 20) 分担：荒川満枝  
基盤研究 (C) 「SARS-CoV-2 の感染と重症化予防に向けた唾液中の特異的 IgA 抗体の解析」  
令和 5 年度～令和 8 年度 (代表・岡山加奈)
- 21) 分担：荒川満枝  
基盤研究 (C) 「ひとり親世帯に対する新たな支援制度への提言を目指す実証的研究」  
令和 7 年度～令和 10 年度 (代表・加峯奈々)
- 22) 分担：荒川満枝  
基盤研究 (C) 「災害公営住宅で生活する高齢者のオーラルフレイルと全身フレイルの経年変化の研究」  
令和 7 年度～令和 10 年度 (代表・宮坂啓子)

#### <日本医療研究開発機構 AMED >

- 1) 分担：永尾潤一  
免疫アレルギー疾患実用化研究事業「ヒトにおける腸-口腔連関として腸内細菌叢が果たす歯周病重症化の免疫学的解明」  
令和 5 年度～令和 7 年度 (代表・田中芳彦)

- 2) 分担：永尾潤一  
新興・再興感染症研究基盤創生事業「新興真菌感染症の重症化における免疫学的分子機構の解明と治療法の創出」  
令和7年度～令和9年度（代表・田中芳彦）
- 3) 分担：永尾潤一  
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（ヘルステック・チャレンジ）「新興感染症の制圧に向けた近未来型ワクチンの開発」  
令和7年度～令和9年度（代表・田中芳彦）

＜厚生労働省科学研究費補助金＞

循環器疾患・糖尿病等 生活習慣病対策総合研究事業

- 1) 分担：得能智武  
「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」  
令和6年度～令和8年度（代表・山崎 聰）